



# 「今」「ここに」「私」

過去を追うな

未来を願うな

過去はすでに捨てられ

未来はまだ来ない

だから ただ現在のことを

ありのままに観察し

動揺することなく

よく理解して 実践せよ

ただ今日なすべきことを熱心になせ

明日 死のあることを誰が知ろうか

かの死神の大軍と

会わないわけではない

このように考えて 熱心に

昼夜おこたることなく励む人

このような人を 一夜賢者という

寂静者 寂黙者と人はいう

『大迦旃延一夜賢者経』



これは、仏弟子のサミッディ師が天人から聞いたとされる『一夜賢者の偈』です。仏教は、過去の出来事を分析する学問ではなく、ましてや未来を予見する占いなどでもありません。私たちの生きている「いま・現在」を問題にする教えです。

龍谷大学で教鞭をとられた辻本敬順さんは、書物のなかで次のように言われています。

過去・現在・未来を「三世(さんぜ)」という。それはまた、前世・現世・後世などともいうが、それらの言葉には「時」という語は見当たらない。仏教では、時間というものを実体としてあつかわず、**存在するものの変遷**としてとらえているからである。過去は現在の原因であり、未来は現在の結果である。だから、今、生起している現在をこそ問題にするのである。

**仏教は常に、「今」「ここに」「私」を対象とする。**

**辻本敬順 著『阿弥陀経のことばたち』より**

『仏説阿弥陀経』のなかに、「今現在説法(こんげんざいせっぽう)」というフレーズがあります。阿弥陀さまは過去にいた仏ではなく、未来に現れる仏でもなく、今まさに、この私のために説法くださり、私が迷いから解放されることを願い、導いてくださっていることを示すことばです。

**今の自分の姿がどんなに受け入れ難くとも、またどんな勘違いをしても、今の姿の中にしか私はいません。**今、仏法を聞くことが大切であり、結果はどうあろうと、今、行動に移していくことが大切なのです。

